

かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。



【知っておきたい/予防したい、誤嚥性肺炎③】

★駒形悠佳歯科医師 障害者歯科学会認定医 摂食嚥下リハビリテーション学会認定士(法人顧問)

【なぜ高齢者に誤嚥性肺炎と窒息が多いのか(続き)】

③喉の筋力低下:喉も筋肉があり、飲み込むためには筋肉を使います。いわゆる「ごっくん」とは喉の筋肉で生み出される動きです。嚥下に関わる喉の筋力が委縮、減少することで、食べ物が上手に食道に送り込めなくなり誤嚥・窒息しやすくなります。

④感覚:口に食べ物が入ると、冷たい・熱い・ざらざら・つるつると感じるように、喉に食べ物が入ると感覚で分かるようになっていきます。しかし加齢変化により、喉の感覚が低下することが報告されており、これにより「ごっくん」の反射が遅くなり気管に水分や食べ物、唾液が入りやすくなります。

【どう対応するか】

脳梗塞や神経筋疾患、認知症等、疾患があきらかで、「体重減少」「頻回なむせや嘔吐」「誤嚥性肺炎や窒息の既往」などの症状がある場合は、医師・歯科医師の評価、診断が必要です。ここでは、評価前にできる対応のポイントをお伝えします。[次回④に続く]※お詫びと訂正=①、②の嚥下の「図」のなかで、一部誤解を招く表現がありました。お詫びして、訂正いたします。



～編集後記～スタッフのつぶやき～

☆明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。年末年始、豪雪災害で話題の地域に帰省しました。小さい頃はこのぐらい雪が降るのは普通で、年々減り、最近また昔に戻った感覚です。ただ、高齢化や人口減が原因なのでしょうか。昔は今より働く世代と子どもたちが一緒に雪かきをしている姿がたくさん見られたものですが、ほぼ見かけません。あと問題なのは、屋根の上の雪。人海戦術が不可欠なのです。人不足、燃料費の高騰など、多様な問題があると思いますが、なんとか乗り切っていただきたいものです。

医療法人財団ファミーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町 1-41-1 桜井ビル 2階

① ☆外来：心療内科＝永井斐子院長

もの忘れ＝新井田素子医師

内科＝駒形清則医師

② ☆訪問診療

内科＝駒形清則医師、駒形明紀医師

精神科＝米谷充医師

神経内科＝今井壽正医師、西岡健弥医師、平井健医師

※詳しくはホームページをご覧ください、お電話にてお問い合わせ下さい。

電話 03-3627-0233